

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく安心して暮らせるように「安心生活、健康サポート、生きがいのある毎日」を理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有、具体化する為に皆で言葉を分析し、明確化し「私達の目標」として、より身近なものとして取り組んでいる。	○ 全職員が理念を具体化した「目標」を日々確認しながら何を大切に入居者さんと向き合うかを常に意識する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各フロアの良く見える場所に理念を掲げ来訪者の目にとまりやすいようにしている。またホームのパンフレットにも掲載し配布、掲示している。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入口にいつでも見学できるように掲示し、散歩の際に挨拶を交わしたり、近所の店に買い物に行ったりしている。	○ 近所の商店に定期的買い物に行き馴染みの関係を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、民生委員の方より地域行事日程を頂き交流に努めている。校区の中学にトライヤルの受け入れを申し入れている。また地域包括センターの介護リフレッシュ講座に参加し情報提供をした。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	相談対応、見学、研修等を積極的に受け入れている。	○	地域の高齢者の困り事や介護に関する相談等いつでも声をかけていただけるように掲示してみる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員の意見を踏まえて作成している。またフロア長会議、フロアミーティングで課題や改善点について検討している。	○	自己評価の結果を職員全員が目を通し理解し共有する事。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概2ヶ月に1度開催し現状や評価の改善点を報告し、意見・情報等を話し合いサービス向上に生かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年10月に調整指導を受け運営上の細かい部分も相談し助言を受け改善した上でサービスの向上に取り組んでいる。	○	今後も継続して相談しアドバイスを受けていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修の一環の中で学習し実際に支援する機会があり、成年後見人制度を活用した。また職員が権利擁護推進員の講習を終了した。	○	全職員が理解できるような研修の機会をつくる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	皆が知識を共有出来る様に、手順書を作成し、再度周知徹底している。	○	今年度の社内研修のテーマとして取り上げておりさらに理解を深めたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	見学の際、契約時に十分な説明をし、理解、納得を得ている。変更がある場合には事前に説明し理解を得た上で契約している。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	運営会議に順次参加を計り、家族の方が来られた時に一緒に面談し、意見交換の場を設けている。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の健康状態、金銭管理、些細なことでも状況報告し、ホーム便りも年4回送付し安心していただけるように情報提供している。	○	遠方に住んでおられるご家族には月1回の写真入りの近況報告の送付を継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、相談窓口、外部への相談をいつでも出来るよう説明し、掲示もしている。	○	ご家族が自分の思いを気軽に話せる様な関係作りを心掛ける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週のフロア長会議で職員の意見、提案の報告を受け、運営に反映させている。	○	運営推進会議の議事録（年間のまとめ分）を出席していないご家族にも送付したりフロアで自由に閲覧できるようにし意見をいただけたらと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	適時対応出来るようフリーの職員、看護師を配置し調整している。	○	入居者さんのADLの低下に伴う個別ケアに対応できるように勤務時間帯を再度検討する。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>固定の職員でシフトを組み、一方ではフロア合同で外出、催しをし交流しながら信頼関係を作りダメージを作らないように取り組んでいる。</p>	<p>○</p>	<p>フロア相互の職員や入居者さんの親睦を深める。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修を実施し外部の研修に参加しレベルアップを図っている。外部研修に参加する時は、翌月のシフトに組み入れて対応している。研修内容を社内研修時に報告してもらい、全員に還元していけるように取り組んでいます。</p>	<p>○</p>	<p>長期的な見通しを持ち職員の外部研修への参加計画をたてる。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の施設見学、研修会を通じて交流にも積極的に取り組んでいるが職員レベルでの交流は少ない。</p>	<p>○</p>	<p>垂水区のグループホーム連絡会を作りたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーを導入し、何でも相談出来るような機会を作り取り組んでいる。</p>	<p>○</p>	
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>フロア長会議を通し職員個々の状況を把握し、向上心・意欲を引き出せるような関わりができるよう心掛けている。</p>		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・申し込みの際、相談しやすく話しやすい状況作りを心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同じ職員が窓口となることにより早く馴染みになり安心して相談できる環境を作っている。またその際の記録を残す事により全職員が情報を共有できる様に努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援相談員とも良く相談し、内容を見極めて対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定前にできる限りご本人にホーム見学をお願いし雰囲気を見て頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしく生活できるような場面を提供し、時には個別で外出し交流を深めたり、料理の味付けなど対話しながら学んだり、支えあう関係を築いている。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	定期的に連絡を取り状況報告し、一緒に支援できるような関わりを心掛けている。	○	ご家族が参加できる様な行事を企画し一緒に過ごしていただく時間を提供したい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	少し距離が置けたことにより、絆が深まり面会に来られた時にスタッフも一緒に談話することにも努めより良い関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前に住んでいた場所を一緒に訪ね、近隣の方に会える機会を持っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の間にスタッフが入り、談話、趣味等の場面を作り円滑に出来るように支援している。また席順等にも配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	スマイルニュースを送付したりその後の状況をお聞きし、関係を大切にしている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを定期的に行い、希望に沿ったケアプランを作成し、同意を得られるよう支援している。	○ 言葉にだせない思いや表情をくみ取れる様に寄り添う介護を心掛ける
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族より十分な聞き取りをし、面会時にも聞きもれ補充をしながら把握するように努めている。またそれを記録し職員皆が情報を共有している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今までの生活歴、習慣を伺い1日2回のバイタルチェックやその人なりの過ごし方を通して把握するように努めている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、看護師等と十分な情報を得、一人一人のケアプラン作成時にスタッフ全員が意見を出すようにしている。	○ モニタリングで出た課題をカンファレンスで話し合いその人らしく暮らせるプランに結びつけ確実にサービスにつなげる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月に一回の見直しと特変があればその都度、関係者と話し合い、現状に即したケアプランを作成している。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	H19年12月よりカルテの様式を変えたことにより個別の記録を記入し、毎日の状態を記入し情報を共有がしやすくなっている。	○	日々の気づきをカンファレンスにつなげていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し重度化した場合も希望でグループホームでの暮らしを継続している。また地域の方と共に講師を迎え市民救命士の講習をディサービスのフロアで行った。	○	職員のターミナルケアへの外部研修へのさんか。また事業所内に市民救命士（上級を含む）が多数おり定期的に講習会が開催できればと思う。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアの方にグループの行事に参加を依頼している。また消防の方には消防訓練を依頼している。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様、ご家族様からご要望があれば検討する。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加していただき助言を伺っている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと連携している主治医には月2回の往診、定期的な外来受診、変化があれば連絡をし指示を受ける等お願いしている。また必要な際にはホーム主治医の紹介により他の医療機関や入居前からのかかりつけ医の受診も支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回の往診時に相談、診断や治療、必要があれば主治医と相談の上で心療内科受診を受ける等の支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	開設当初から午前、午後と2回バイタルチェックで状態を把握し、主治医との連携、入居者さんの健康管理に努めまた常時連絡がつくように対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医の指示のもとに、病院関係者との情報交換をし連携を取りながら支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を入居時に説明し同意をいただくと共に必要に応じてターミナル時の方針を話し合い、家族・主治医と絶えず連携を取りながら全員で方針の共有に努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医・看護師と絶えず連携を取りながら職員全員が情報と方針を共有し支援している。また必要時には「看取り委員会」を立ち上げている。	○	重度化した場合に対応できるハード面での充実と職員の心のケア

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅に戻られる場合はご家族や介護支援専門員に、病院へ移られる場合は関係者に情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	チーム全員が常に入居者さんの人格やプライバシーを守る言葉掛けや対応をするように徹底し、個人情報についても入社時に秘密保持に関しても十分な説明を行い誓約書を取っている。	○	常に意識し徹底できるように定期的にミーティング等で具体的に確認する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いや希望を表せるような環境作りに努め自己決定を支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態を考慮しながらもその人らしい過ごし方ができるようにご本人の思いを確認しながら支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身体状況に応じて身だしなみやおしゃれができるように支援し、可能な範囲で理容、美容は本人の望む店に行けるようにし、また出張の美容師さんにもきてもらっている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は配達された食材でのメニューになるが週末はメニューを相談し決めている。また買い物・準備・片付け等一人ひとりの好みや力を活かしながらできる範囲で行っている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々のご希望を聞きながら、状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレチェック表でパターンを把握し、プライドを傷つけない声掛けをしながら支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、体調や希望に合わせて日勤時間帯はいつでも対応できるように支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員が一人ひとりの状況を把握して、安心して休めるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴、好み、能力を生かせるように支援を心掛けている。		


項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経理で預かり金を管理しているが希望があれば一緒に買い物に出かけ本人が決定し支払えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、気候等を配慮した上で買い物、散歩、ドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前住んでいた場所を見てみたいというご希望に1対1の外出で対応している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話が出来るようにしている。手紙はスタッフと一緒に出しに行ったりしながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定せずに、いつでも訪問できるよう玄関も開放し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティングにて全員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	本年度の社内研修のテーマに取り上げている。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵をかけず解放している。また居室の鍵は職員側からはかけていない。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフルームが見渡せる位置にありフロアにも必ず一人はいるようにし、昼夜通して所在、様子が把握し、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方にとって危険であると判断されたものは家族の了解を得た上で取り除いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング、研修を通してリスクマネジメントを学び一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	今回作成した事故防止マニュアルを全職員が理解し徹底する。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者、スタッフ全員が市民救命士の資格を持ち、定期的に訓練も行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアル整備と年2回の消防署との防災訓練を実施し、地域の応援も協力を得られるよう、自治会、運営会議でも働きかけている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に十分な説明をし、今後の取り組みについて話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後2回のバイタルチェックと常時の見守りで、変化や異変の発見に努め、気づいた際は看護師、主治医に連絡し対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師の指示のもと正副フロア長が理解し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○	服薬マニュアルを全職員が理解し徹底する。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレチェック表でパターンを把握し、水分補給、食事の工夫や軽い運動の取入れ等に取り組んでいるがそれでも対応しきれない時は医師に相談し薬を処方してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼、夕と毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた支援をしている。また夜間は義歯を洗浄液に浸け清潔に使用できる様に支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養を考慮したメニュー、水分チェックをし、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	入社時に感染症マニュアルにてレポート提出で理解し、予防接種も実施し対応している。	○	感染症マニュアルの見直しと対応を再確認する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等は常に殺菌、消毒をし、消費期限にも気を付けた新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るいレイアウトと室内レクで利用者さんが作った作品を展示し、家族、近隣の方が安心して出入り出来るよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花、利用者さんが作った作品、外出レクの写真等を適時に飾り付けて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子、仲の良い利用者同士が談話できる三人用の椅子等、思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた馴染みのある物を自室において落ち着ける場所にし、入居後に作った作品、写真を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>健康状態に合わせて換気、温度調節に常に配慮している。また加湿器を置き空気の乾燥にも注意している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>導線上に手摺りの設置、トイレ内、浴室にも手摺りの設置、リビングの一部のスロープ等で、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	○	<p>入居者さんのADLの低下が考えられるため状況に合わせて手すり等の増設を検討する。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>毎朝のラジオ体操や挨拶等、1日の流れの中でできる事を維持継続できる様に工夫している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダで花壇の水やりや景色を眺め気分転換していただいている。正面玄関の壁面には皆が作った作品を展示し来訪者に見ていただいている。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※・ユニットごとに固定された職員でシフトを組む事でじっくりと人間関係を築くことができ家族のように関わりあえるようになっている。
 ・介護技術向上のため職員が各種研修に参加している。また資格取得を目指し研鑽している。現在介護職員17人中8人が介護福祉士、1人が介護支援専門員を取得した。